



佐賀本で深掘るテーマ展示#6

『佐賀県近世史料』 の 世界

『佐賀県近世史料』の世界

佐賀県近世資料編さん事業

江戸時代の佐賀県域では佐賀藩や唐津藩、対馬藩などが並立し、地域ごとに特色ある歴史や文化が育まれました。

また、古文書をはじめとする歴史資料も産業・教育・文化・宗教など様々な分野に数多く残っています。

佐賀県立図書館では、郷土の歴史解明に役立てるとともに佐賀県の歴史的文化遺産の普及を図るため、江戸時代の佐賀に関する重要資料を活字化し、『佐賀県近世史料』として刊行しています。

本展示では、令和8年（2026年）3月に刊行した『佐賀県近世史料』第7編（産業編）第1巻（鋳物師・鍛冶）から、佐賀藩の御用刀鍛冶橋本家に伝来した「橋本家資料」をご紹介します。

構成（編さん計画）

第1編	佐賀本藩
第2編	支藩（小城藩・蓮池藩・鹿島藩）
第3編	唐津藩
第4編	対馬藩領（田代・浜崎）
第5編	対外交渉
第6編	地方・町方
第7編	産業
第8編	思想・文化
第9編	文学
第10編	宗教

『佐賀県近世史料』を編む

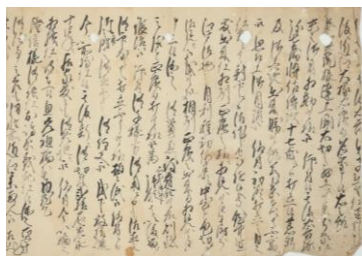
1 調査



テーマに関係する歴史資料の情報を収集し、史料調査をおこないます。

各巻に収録する史料は、専門的知見を持つ研究者（編さん委員）と相談の上、決定しています。

2 翻刻



歴史資料のほとんどは難解な「くずし字」で書かれています。

史料集として刊行するためには、古文書を解読し、翻刻文を作成する必要があります。

3 校正



翻刻した文字等に誤りがないか慎重に繰り返し確認します。誤読によって文章の意味が変わってしまうことがないようにするためです。

また、歴史資料の風合いを残しつつも読みやすくなるようにレイアウトなどを調整・検討します。

4 刊行



調査から刊行に至るまで1巻あたり5、6年をかけて編さんしています。

刊行された史料集は、郷土の歴史解明や展覧会、調査研究など、様々な場面で活用されています。

。

『佐賀県近世史料』

第7編（産業編）第1巻（鋳物師・鍛冶）

鋳物師

いもじ 鋳物師とは

鋳物師は、金属を溶かして型に流し梵鐘や鍋・釜などを作る職人であり、武具や農具、生活用具の生産・修理に不可欠な存在でした。佐賀藩の鋳物師は、清和天皇に認められた「鋳物之司職」という由緒を持つ日出嶋家によって統括されていました。幕末には御用鋳物師の谷口家が西洋式大砲の鋳造等に関わるなど、佐賀の在来知として近代化にも貢献していました。

収録資料

日出嶋家文書（個人蔵・小城市立歴史資料館寄託）
（久留米大学御井図書館蔵）

谷口家資料（個人蔵）

- 鍋島家文庫（公益財団法人鍋島報效会蔵・佐賀県立図書館寄託）
- －長瀬町竈帳
 - －御石火矢善悪相改
 - －両御番所石火矢調子調書扣
 - －船ニ乗置候武具
 - －社寺古鐘之銘

鍛冶

かじ 鍛冶とは

鍛冶は、鋏先や鎌・鋤・刀・包丁・釘等を作る職人であり、鋳物師と同じく土木工事用具や生活用具の生産に不可欠な存在でした。佐賀の鍛冶では、佐賀藩の御用鍛冶で「肥前刀」が著名な肥前橋本一門や佐賀藩大配分諫早家に仕えた境家などが知られています。本書に収録した「橋本家資料」は初代肥前忠吉と並び橋本一門の中心を占めた橋本正広家に伝来した資料群です。

収録資料

橋本家資料（佐賀県立図書館蔵）

- 鍋島家文庫（公益財団法人鍋島報效会蔵・佐賀県立図書館寄託）
- －長瀬町竈帳
 - －肥前国忠吉一類系
 - －〔橋本謹一忠吉家之書類〕
（「橋本謹一橋本正廣両家之書類」のうち）

橋本家資料

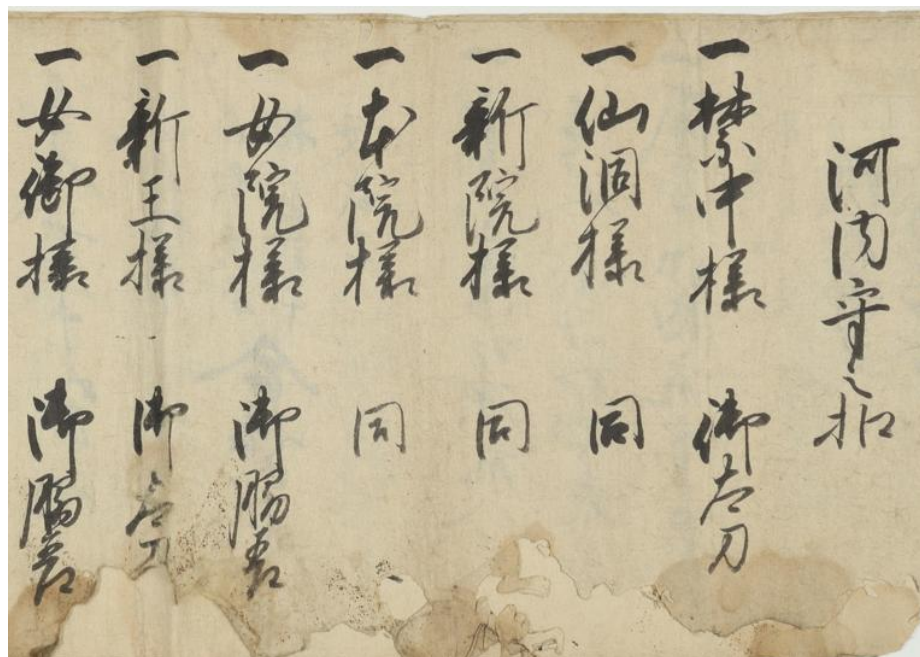
所蔵 佐賀県立図書館（令和7年度寄贈）

点数 403点

佐賀藩御用鍛冶橋本正広家^{ごようかし}に伝来した資料群。

橋本正広家は、刀工肥前新左衛門忠吉の養子吉信の嫡男正広を初代とします。
本家の橋本忠吉家（近江家）とともに、鍛冶集団である肥前橋本一門の中心に
ありつづけました。

刀工に伝来した資料は全国的にも珍しく、作刀の過程をうかがうことのできる
点でも貴重な資料です。



河内守之扣

資料番号：橋117

『佐賀県近世史料』第7編第1巻、85号

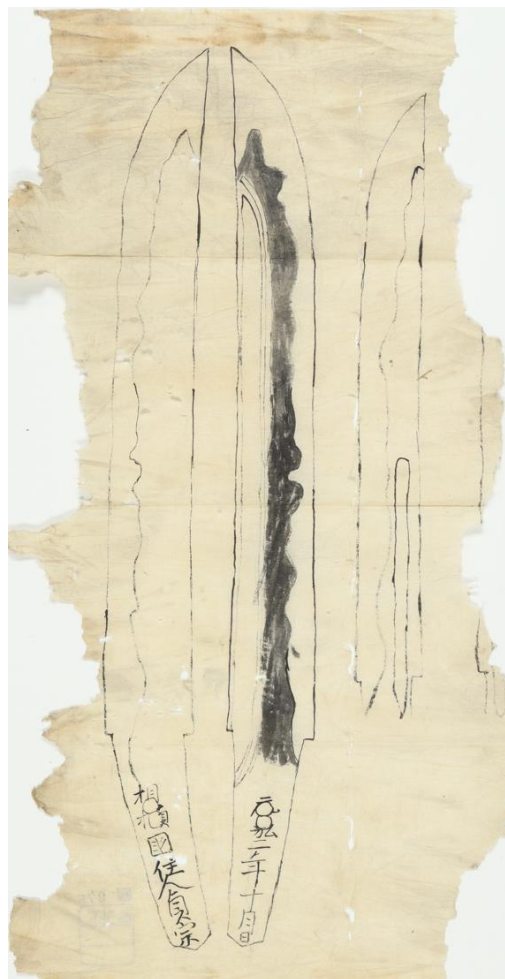
刀剣をまなぶ

刀剣は、武具としての用途はもちろん、朝廷や幕閣等の要人への贈答や寺社への奉納等のためにも作られました。

刀工が受ける注文はさまざまであり、それに応えるには知識と技術が不可欠です。注文書のなかには、「御本」として古刀をモデルにするよう指示したものもあります。

江戸時代には、本阿弥家を中心に刀剣の鑑定が盛んにおこなわれ、和紙に墨で形や^{なかご}茎を刷りとり刃文等を書き込んだ「^{おしがた}押形」なども作られました。

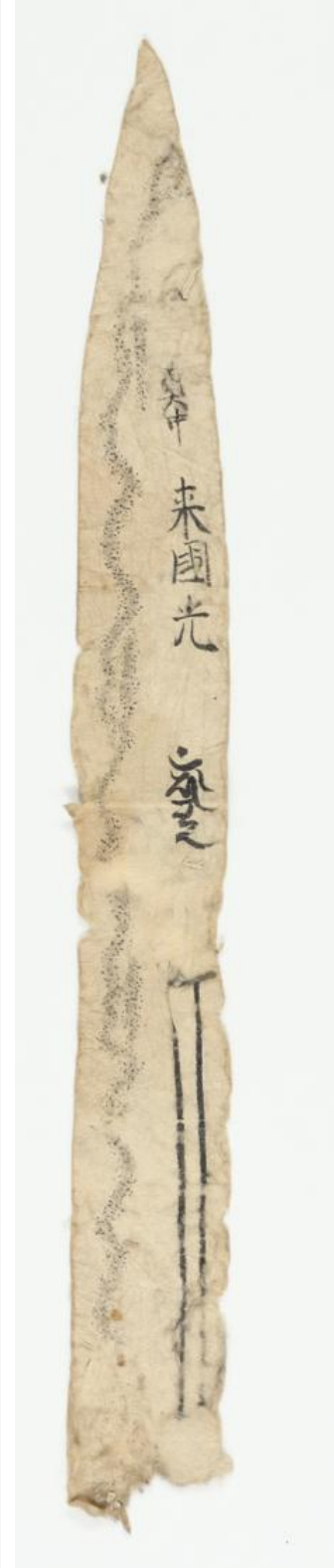
「橋本家資料」には古刀を写した「刀図」が多くあります。橋本家も押形などから、その形態などを学んでいたようです。



刀図

資料番号：橋275

『佐賀県近世史料』第7編第1巻、207号



材料を調達する

橋本家は、佐賀藩御用鍛冶^{ごようかじ}という立場から、藩主の参勤交代にあわせて刀剣作製を命じられていました（御参勤御用^{ごさんきんごよう}）。

作刀には玉鋼^{たまはがね}が必要です。

橋本家は藩から購入資金（仕込銀^{しこみぎん}）の提供を受け、石見国^{いわみのくに}（現・島根県）を訪ねて良質な玉鋼を購入していました。

しかし、藩の財政悪化に伴い仕込銀が減らされると、筑前国に流通した石見国産の鋼を購入し、筑前国に流通していない場合には久留米や唐津、大村、長崎まで探しに行き、御用に必要な量を僅かずつ掻き集めていたようです。

某儀代々不相替御用相續被 仰付難有奉存候、然も年々打立仕候もがね石見国筑前参居候を取寄打立申候、以前ハ御参勤前年仕込銀相渡り候故、石州罷越自由ニ釵相調候得共、段々仕込銀も相減、近年も一向不被差出候得も、数年直ニ取寄候義不相叶、筑前釵ニ而相済居候処、当夏御用之節例之通筑前釵調罷越候処、折節鉄物致私底、久留米・唐津・大村・長崎探促仕、漸御用之分纔宛所ニ而拾イ買ニ而御用相調候、然も明年も御参勤年ニ御座候得も、例之通御用被 仰付ニ而

奉願口上覚

奉願口上覚
某儀代々不相替御用相續被 仰付難有奉存候、然も年々打立仕候もがね石見国筑前参居候を取寄打立申候、以前ハ御参勤前年仕込銀相渡り候故、石州罷越自由ニ釵相調候得共、段々仕込銀も相減、近年も一向不被差出候得も、数年直ニ取寄候義不相叶、筑前釵ニ而相済居候処、当夏御用之節例之通筑前釵調罷越候処、折節鉄物致私底、久留米・唐津・大村・長崎探促仕、漸御用之分纔宛所ニ而拾イ買ニ而御用相調候、然も明年も御参勤年ニ御座候得も、例之通御用被 仰付ニ而



奉願口上覚

資料番号：橋148

『佐賀県近世史料』第7編第1巻、111号

おらんだ なんばん 阿蘭陀鉄（南蛮鉄）

佐賀藩御用鍛冶である肥前橋本一門が作製した刀剣には、阿蘭陀鉄を使ったものもありました。

下記の資料（公儀御用御神剣打立入具銀覚）では、長崎で「阿蘭陀びわ鐵」を購入したとあります。

佐賀藩は江戸幕府から長崎警備を命じられていたため、西洋の物品をいち早く入手できる環境にありました。

一もし取役六拾三人

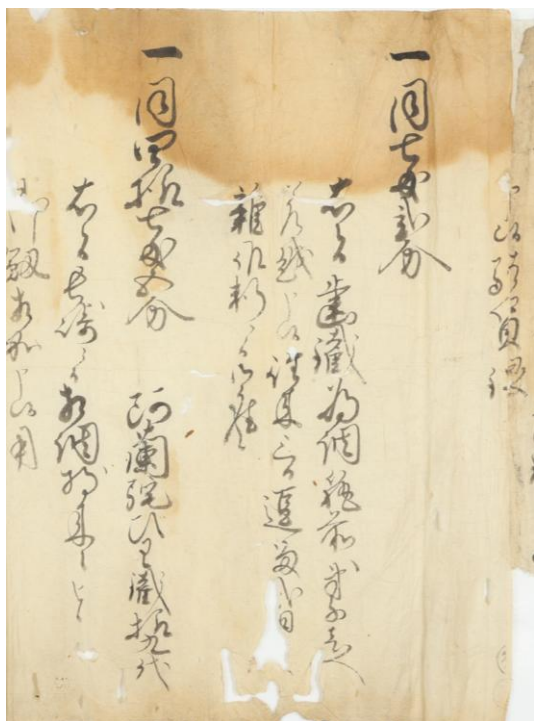
右も長崎ニ而相調持来候を 御劔相加申候用

一同四拾七匁五分 阿蘭陀びわ鐵拾九代

留式日□雑作料ニ而御座候

右も齒鐵為調筑前へ弟子壱人差越申候、往来三日逗

一同七匁貳分



公儀御用御神剣打立入具銀覚（部分）

資料番号：橋385

『佐賀県近世史料』第7編第1巻、194号

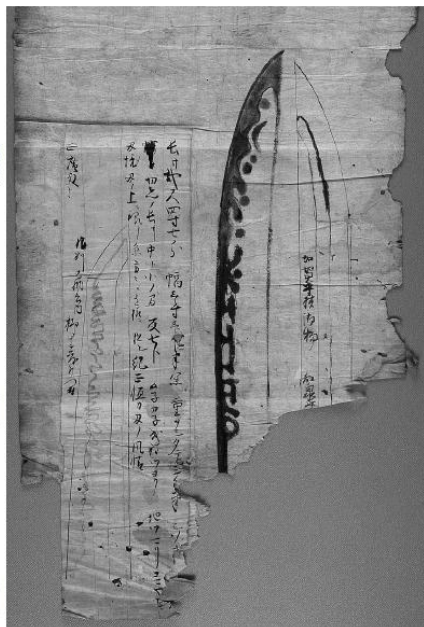
刀剣をデザインする

本家に依頼された武器は、刀・太刀・薙刀・鑓など多岐にわたり、右に掲載した刀図のように、長さや幅、反りの寸法、切先や刃紋などについて細かい指定を受けることもあったようです。

現存する刀剣類は、一振ごとに異なる特徴を持っています。

刀工が得意とする技術や傾向はもちろんながら、そのなかには、依頼人の要望を反映したものも多くあると考えられます。

「貼紙表」
 長サ式尺四寸七分 幅一寸半 重ヲシタテ三〇分半 シノキ
 ■切先ノ長サ中ト小ノ間 反七分 △子カ子成程ツヨク 地ツマリコマヤカニ
 刃境刃ノ上ニ銀ノ糸方ニ有様ニ 但シ紀正恒カ刃ノ風情
 正廣殿まいる
 「貼紙裏」
 正保式乙酉極月吉日 使 角之助殿令
 尾州大納言内 柳生茂左衛門尉



藩主鍋島綱茂による彫刻

「橋本家資料」には刀身への彫刻を図示した資料が残っています。

天和2年（1682年）に橋本正広が記した覚書をみると、三代佐賀藩主鍋島綱茂が脇差に「梅之花立木」を彫り、裏に自筆で「氷肌」と二字を記したことや、別の刀の裏表に「松之立木」と「竹」を彫り、両面に「亀寿」・「鶴齡」という二字を自筆で記したという記載があり、刀身彫刻図と一致します（谷頭舞姫氏の御教示による）。藩主が自ら刀剣に意匠を加えたことがわかる貴重な資料といえます。



刀身彫刻図

資料番号：橋284

『佐賀県近世史料』

第7編第1巻、212号

「二二 刀身彫刻図（橋本家資料）関連資料」 橋本正広覚書
『佐賀県史料集成』第十七巻所収 橋本家文書「二三号」

御城ニ而細工仕候次第

（佐賀本）信州様御上意ニ而、馬渡忠兵衛より忠廣、正廣江被仰

渡候も、古作新作ニ無之珍敷刃取工夫仕、絵図を以差
上申様と被仰付候、忠廣方よりハ直乱両面之刃取上リ
申候、某ハ八景之刃取仕上候得も、被遊 御上覽、
一入御意ニ入申候付而、右刃御焼せ御覽可被成由、上
意ニ而御座候事

一天和貳年壬戌三月五日、於北之御丸、我々細工被遊御
上覽候、御書院之前ニ細工屋出来申候、御書院之縁よ
り 御上覽之事

一細工仕候次第、先荒羽鉄三折程仕召置、其上ニ真鍮之
仕懸鍛羽鉄打ひらめ、かねあけ打碎積重すへわかし眞
鍛仕、三折程仕召置候事

一ひらめ羽鐵一枚、前を以誘召置候を、しんかね取合、
脇差巻ツ延申候、左候而、ひらめ地打仕焼下地ニ出来、
一尺三寸五部之平作之脇差、直刃地之内ニ梅之花立木、
一方ニ 信州様御自筆ニ而氷肌と二字被遊候、則御前
ニ而焼申候、尤親子ニ而替ル〱仕候事

一刀脇差三腰、信州様御刃取被遊候、則御前ニ而焼申候
處、三腰ながら見事ニ出来仕候、御刃取之写如此、

一長二尺平作刃直地之内ニ、一方ニ松之立木、一方ニ竹
両面ニ 亀壽鶴齡、如此二字宛、両面ニ御自筆ニ而被遊
候、無類之出来物ニ而御座候事

一銘御切せ被成、御上覽被遊候、其刀裏銘ニ、於御圖作
之、天和二年季春日、如此 御上意ニ而切付申候事
一馬渡忠兵衛を以、親正廣代、泰盛院様御書并御直答
数通、其上某代々之 口宣、不殘 御上覽被爲遊、御
機嫌克御座候、左候而、細工仕候翌日、親子共ニ 御
城江被召出、難有御意ニ而銀子拜領仕候事

天和二年壬戌

三月六日

橋本河内（花押）

肥前刀を贈る

橋本家は、佐賀藩から刀・脇差・鎧などの作製を依頼されることがありました。
作製の目的は参勤交代に伴う諸大名や長崎奉行への贈答であり、佐賀藩は御用鍛冶として疵などがないよう念を入れて作製するよう指示しています。

ときには藩外から注文を受けることもあったようです。

正徳元年（1711年）、江戸幕府は朝鮮通信使の来日に伴い、太刀と長刀の作製を各国の名工に指示します。その中には肥前橋本忠吉一門から橋本忠吉・橋本正広・橋本行広も選ばれていました（橋本家資料219／朝鮮国王〔 〕被遣候太刀長刀鍛冶之書付）。

「橋本家資料」に残る注文書からも、肥前刀が藩内外から高い評価を受けていた様子をうかがうことができます。

佐賀藩による贈答先

江戸幕府

側用人 柳沢出羽守吉保
日向飢肥藩 藩主 伊東大和守祐実
長崎奉行 成瀬因幡守
対馬藩 宗対馬守家来
相模小田原藩 鳥井雲八（老中大久保忠朝内者）

主な納品先（佐賀藩外）

朝廷

公家(カ) 土山主殿佐
※任官に伴う霊元天皇・後西上皇等への献上

朝鮮通信使

（正徳元年）

江戸幕府

高家 吉良上野介義央
長崎奉行 永井直允
黒石藩（陸奥弘前藩支藩）藩主 津軽采女政兇
尾張名古屋藩 柳生利方（藩主徳川義直内者）
江戸幕府医官 木村養運

光

一玉順新刀吉平

一同銀貨吉平

右正廣作

右正廣九月廿四日

市奉行正廣所用

折立

作付の東照寺金

正分入金剛白銀

佐賀縣史

佐賀縣史

佐賀縣史

佐賀縣史

佐賀縣史

佐賀縣史



朝鮮國王

長刀鍛冶

法成寺橋水記

陸奥書院

武藏書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院

武中國書院

水戸書院

水戸書院

法成寺橋水記

陸奥書院

武藏書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院

水戸書院



朝鮮國王□□（遣）候太刀長刀鍛冶之書付

資料番号：橋219号

『佐賀県近世史料』第7編第1巻、138号

『佐賀県近世史料』は、 調査研究にも使われています

『佐賀県近世史料』は様々な場面で活用されています。その一部をご紹介します。

レファレンス（調査・相談）

学習・研究・調査等のために必要な資料や情報をお探しの方に、図書館員が図書館の資料を活用して調査相談のお手伝いをし、資料や情報を提供するサービスです。

2階カウンターに専用窓口を設置していますので、お気軽にご相談ください。



佐賀県立図書館ホームページ

https://www.tosyo-saga.jp/page_id159

調査・研究

『佐賀県近世史料』は佐賀の歴史や文化・宗教等に関する調査・研究や展覧会等に活用されています。その一部をご紹介します。

■著書

松尾晋一『江戸幕府の対外政策と沿岸警備』（校倉書房、2010年）請求番号：S205/Ma,85

岩松要輔『鍋島直茂』（戎光祥出版、2016年）請求番号：S289/N,11

田中眞子『葉隠<武士道>の史的研究』（吉川弘文館、2022年）請求番号：S156/Ta,56

中野等『関白秀吉の九州一統』（吉川弘文館、2024年）請求番号：S204/N,39

■展覧会図録

『京の雅と小城藩』（佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2019年）請求番号：S242/Sa,15

『初期伊万里ビッグバン』（佐賀県立九州陶磁文化館、2025年）請求番号：S751/Sa,15

『佐賀県近世史料』を更に深掘る

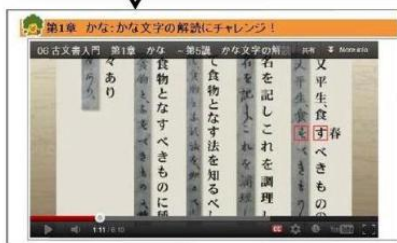
佐賀県立図書館では、現在まで残っている郷土資料の調査を進め、とくに重要な資料を『佐賀県近世史料』として刊行しています。

ここでは、『佐賀県近世史料』とあわせて御利用いただくことで、より深掘りできるツール等をご紹介します。

古文書講座

古文書の読み方を学ぶことができるWeb講座「くすくすくんのWeb版古文書入門」（全30講座）をYouTube上で公開しています。

また、講座はナレーションと動画で構成されており、印刷して使えるテキストも付いていますので、古文書を読むための基礎知識を分かりやすく学ぶことができます。



「タイトル」をクリックすると、動画画面が開きます。



「テキスト」ボタンをクリックすると、PDF形式のテキストが開きます。



佐賀県立図書館ホームページ

<https://www.tosyo->

[saga.jp/page_id137/web-komonjo](https://www.tosyo-saga.jp/page_id137/web-komonjo)

佐賀県立図書館データベース

佐賀県立図書館が所蔵する古文書、古地図・絵図のデジタル画像等をWeb上で公開しています。現在、全19のデータベース、のべ4万件を超える画像を閲覧可能です。『佐賀県近世史料』とともに活用いただくことで、より佐賀の歴史を深掘りすることができます。



佐賀県立図書館データベース

🏠 / コレクション / 古文書・古記録・古典籍データベース / 鍋島直茂関連

鍋島直茂関連文

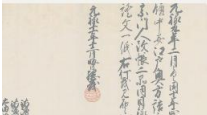


画像1 [PDFファイルを見る](#) (1.2 MB)

画像の取扱いについて

 パブリックドメイン
(詳しくは、利用案内を参照してください。)

資料群	旧所領家資料
資料群詳細	佐賀藩家老の旧所領家に伝来していたもので江戸初期のものが多いとみられる。書状は、鍋島直茂、勝茂、元祐、黒田善心等、主三(鍋島直茂の従兄・弟)宛のものが多いとみられる。これらは『佐賀県史料集成』11、12、13、14巻等に収められている。また、『伊勢物語』(写本)も本系統の伝本(勘定本)で、主三(鍋島直茂)宛のものとして注目される。約5,200点。
資料名	鍋島直茂文書
請求番号1	11.1
請求番号2	79177
年代和暦	天正20年
年代西暦	1592
作成者	鍋島直茂
内容	11月28日、秀吉朝鮮出兵出兵、直茂隠退寺一門家中ノ冥運ノ義理ヲ祈願ス。
形状1	
形状2	
資料分類	
複本	5複本11-01
マイクロ	
備考	



古文書・古記録・古典籍

古文書・古記録・古典籍の画像を閲覧できます。

[検索する](#)



古地図・絵図

主に江戸・明治期の古地図・絵図の画像を閲覧できます。

[検索する](#)



近代地図

近代の佐賀県域の地図を閲覧できます。

[検索する](#)



米国防空写真による地形図

1940年代撮影の空中写真から作成された佐賀県域の5,000分の1地形図を閲覧できます。

[検索する](#)



字図

主に有明海沿岸部の佐賀市南部、神埼市南部、吉野ヶ里町の一部、白石町の一部、大井町の一部の字図を閲覧できます。

[検索する](#)



絵図

屏風絵や絵巻等の画像を閲覧できます。

[検索する](#)



絵葉書・写真

主に戦前の絵葉書や写真を閲覧できます。

[検索する](#)



楽間 - HAGAKURE -

『楽間』の巻物等。『校註楽間』の本文及び英訳、雑誌『楽間研究』の目次等のデータベースです。

[検索する](#)



佐賀県文化財調査報告書

佐賀県教育委員会が発行した佐賀県文化財調査報告書を閲覧できます。

[検索する](#)



MEMO

発行 令和8年(2026年)10月 1 日
佐賀県立図書館
〒840-0041 佐賀市城内2丁目1-41
TEL.0952-24-2900 FAX.0952-25-7049
MAIL : saga-kentosyo@pref.saga.lg.jp
ホームページ : <https://www.tosyo-saga.jp/>